

こんな事をしました！

こんな事がありました

## 2005年度 里山保全総合講座報告①

### 5月29日(第1回)開講日、伊井野さんが里山への熱い思いを語った

2005年度の開講日。この日の参加者は8人。午前中は自己紹介、赤目の森の紹介、そして伊井野さんが「何を里山に求めるか」と題して約40分間の講義。『里山の木は伐って育てるもの。萌芽更新＝ぼうがこうしん＝という言葉だけは覚えてください』と里山を守り育てる意味について熱い思いを披瀝した。

午後はトムソーヤ広場でエンジン付きの自走式草刈り機のデモへ参加。ゴーカートの様な乗り物の下部にローターが付いたもので人が乗って走るだけで草刈りが出来るというすぐれもの。これまでのシンドイだけの草刈りから楽しみながらの草刈りへと技術の進歩が実感出来る機械。参加者全員が試乗した。



ゴーカート型の草刈り機に試乗して草刈りをした

その後、今年度からの参加者はトムソーヤ広場からトンボ池へ移動して「赤目の森」の見学。前年度からの参加者は引き続いてゴーカート草刈り機で走り廻った。一番うれしそうだったのは伊井野さん。「これがほしーイッ！」と連呼しながら草原を走り廻りドンドン草を刈っていた。

### 6月19日(第2回)樹木の同定の手ほどきを受ける

講師の「プラネット・フォーまちづくり推進機構」の中村良三さんから樹木の名前の手ほどきを受けた。葉の形から樹木の名前を知る方法を座学したのち、野外で実際の木を見ながらの説明。「緑一色に見えても木の種類が違くと色も違う。樹木の名前を知る事で木や森への理解が深まる」との説明が野外実習で実感出来た。樹木の名前と特徴を聞き、樹皮の違いの説明を受け、コウゾの木の実を食べたりした。コウゾの実は甘く、木イチゴの実はスッパかった。「お茶の木や柿、コウゾ、クヌギが生えているのは、かつてこの土地で生活していた人が植えたもので自然発生したものでは無い」との説明に納得。



樹木同定の野外実習で名前と特徴を教わった

この日は10種類の木の名前を確実に覚える事に集中し、①栗 ②コシアブラ ③コウゾ ④コナラ ⑤クヌギ ⑥ソヨゴ ⑦柿 ⑧お茶 ⑨ヒサカキ ⑩リョウブそれぞれの葉の特徴と見分け方を学んだ。

野外実習の途中、世界一小さいトンボ＝ハッチョウトンボの生息池でトンボ探し。いた！雄と雌が飛んでいるのを確認。



朱色が鮮やかなハッチョウトンボのオス

講師の中村先生が「私は生きて飛

んでいるハッチョウトンボを見たのは初めて。これまで標本でしか見た事がない。目の前でハッチョウトンボが見られる赤目はすごい場所だ。それだけで皆んながドッと押し掛けて来ても不思議では無い」と感激。講座生はキョトン。

午後、リーダー講座生はトンボ池の掻き出し、レディース講座生は絵手紙づくり。

トンボ池の掻き出しはヒザまで泥水に浸かって、カマで水草の根切りをしてすくい上げる作業。普段やらない作業なので身体の節々が悲鳴をあげ、暑さでドッと汗が噴き出る。泥水が顔やシャツにはね跳び、池底のドロにはまった足がなかなか抜けない…。こんな作業を約2時間弱。池はスッキリしたが人はヘトヘト。里山復活は生半可な気持ちでは出来ない事を体感し実感した。



トンボ池の整備作業は予想以上に過酷だった

【文責＝里山保全リーダー講習生・芝田 香象】